

たじみん昼話 97

努力するなら創意工夫を凝らそう

学習や部活動において、「ひたすら努力せよ」と指導されることが多い。しかし、何も考えずに頑張っても、よくある試合結果の解説、「善戦むなしく」「努力もむなしく」「努力の甲斐なく」と、労力の割に残念な結果に終わることが多い。

もちろんどかんと行う力技の努力が出来る人はそれでも良いかもしれない。しかし、どうせ努力するなら工夫して効率的に努力することを桔梗はお薦めする。これは、無限の可能性がある多治高生と言えども、肉体にも精神にもキャパシティという限界があるからだ。同じ努力をするにしても、すぐに取り掛からず、冷静に考えながら創意工夫と改善をしながら取り組んで欲しい。

桔梗が実際に工夫して実践した、簡単な学習方法を示す。

- ①夜遅くまで起きているのは無理という人へ
朝型にシフトする。机に向かう時間がないので隙間時間にやる。無駄に消費する隙間時間をどれだけ有効活用出来るかが、意外と大きな差を生む。
- ②問題集が重いという人へ
バラバラにして軽量化して、その日にやる分だけ持ち歩く。
- ③単語帳が記憶できないという人へ
外人さんをつかまえて、間違っていようが不思議な顔をされようが、がんがんしゃべりかけて恥をかきながら覚える。感情をプラスすると、強烈な印象とともに記憶に残る。(独語でも効果を検証済み)
- ④記憶が保持できず、すぐ忘れてしまうという人へ。
③を活用しながら、時間数より接触回数を重視する。うつ伏せになり、顔の前に単語帳を置いて腕立て伏せをしながら覚える。(学習+運動は相性が良く効果があると聞いて実践した。効果は抜群だが、運動に夢中になってしまうという欠点がある。)
- ⑤学習内容が多くて重いという人へ
内容を細切れに分解して軽くして取組む。量を減らして少しでも先に進むことで、やっているんだという達成感を味わえる。自身も少しだが付く。

どれも昔から実践されているオーソドックスな学習方法だ。自分用にカスタマイズしてから試してみよう。自分に合ったものにカスタマイズすることがポイントだ。この学習は仕組みさえ完成すれば努力も継続しやすい。自分が努力できる自分専用の学習の仕組みを作り、それをストイックにやり続けよう。

今一度、自分を俯瞰して自分の特性を掴むところからはじめることだ。